

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 相澤 牧人

オークランドでの ACC-15 に出席して

主教 ローレンス 三鍋 裕

○第15回聖公会中央協議会

ACC-15という会議に行って参りました。ACCとは聖公会中央協議会と訳されていますがカンタベリー大主教、ランベス会議、首座主教会議と並んで聖公会一致のための器の一つで3年に1度開催されます。今回は15回目代表は各管区の規模によって1人から3人、他に首座主教会議からの代表の首座主教が5人、エキュメニカルパートナーと呼ばれる他教派の代表、ネットワークと呼ばれるACC各部門の代表者などで約80人が参加者です。もちろんスタッフやボランティアも加わりますから結構な人数です。期間は正味でも10日以上でしたから疲れました。カンタベリー大主教が主宰者で、議長はマラウイのテンガテンガ主教が務められました。

○多民族・多文化が共存するオークランド

今回の開催地はニュージーランドのオークランド。前議長のパダソン主教は最近までオークランド教区主教でいらしたこともあるのでしょう、きめ細かく配慮された歓迎を受けました。正式にはアオテアロア・ニュージーランド・ポリネシア聖公会という管区ですが、古くからの住民であるマオリ系、植民者としてやってきた英語系の新住民、そして海の民ポリネシア系の人々で成り立っています。昔は海に境界はありませんでしたからハワイ辺りまで同じポリネシア文化圏だったそうです。決して問題が皆無とは思いませんが、違った文化の人々が融和して暮らしています。移民もいますし、最近では原発からの放射線を恐れて避難してくる日本人もいるそうです。祈祷書も聖歌も英語とマオリ語が併記されたり織り交ぜて使われたりです。英語で不自由はないのですがマオリの言語がすたれると、言語を媒体にした歌謡や伝承がすたれてしまいます。お互いの違いを認め合い尊重しながら一緒に生きているこのお国、ACCの開催地として本当にふさわしい場所に思われました。

○保たれている聖公会の一致

前回のジャマイカでのACC-14では聖公会誓約が話題の中心の一つでしたし、聖公会は一致を保てるのかという懸念もあ

□会議・プログラム等予定

(11月25日以降および
前回報告以降追加分)

- 11月
26日(月) 正義と平和・沖縄プロジェクト会議〔沖縄教区センター〕
27日(火) 「いっしょに歩こう!プロジェクト」運営委員会〔仙台〕
29日(木) 教役者遣児教育基金・建築金融資金運営委員会
30日(金) 臨時主教会〔福岡〕
- 12月
1日(土) 九州教区主教按手式〔九州教区主教座聖堂〕
4日(火) 礼拝委員会
6日(木) 文書保管委員会
6日(木) ハラスメント防止検討委員会〔京都教区センター〕
7日(金) ウィリアムズ主教記念基金運営委員会〔立教大学〕
11日(火) ~13日(木) 正義と平和・日韓協働プロジェクト合同委員会〔ソウル〕
13日(木) 年金委員会/年金維持資金管理委員会合同委員会
20日(木) 正義と平和委員会〔京都教区センター〕
21日(日) 第2回世界聖公会平和協議会実行委員会


2013年

- 1月
9日(水) 人権担当者会〔大阪教区事務所〕
13日(日) ~14日(月) 各教区青年担当者の集い〔名古屋学生青年センター〕
14日(月) 青年委員会〔名古屋学生青年センター〕
18日(金) 主事会議
29日(火) 59-4常議員会

<関係諸団体会議等>

- 12月4日(火) ~7日(金) 原子力に関する宗教者国際会議〔会津、郡山〕-岩城司祭出席

(次頁へ続く)

 管区事務所の冬休み 12月31日(月) ~1月4日(金) 管区事務所業務を休みます。よろしくお願いたします。

りました。今回は各管区で審議中ということでもあり、この話題には短い時間が割かれたただけでした。正直、もう古い話という感じでもありました。イングランド、スコットランド、米国、ご当地ニュージーランド、お隣の韓国、そろって誓約に不参加ですから流れが変わったようです。実際には聖公会の分裂など、どこの話かと思う聖公会の絆を感じさせられる会議でした。急

用で来れなくなった代表はいましたが、はっきり欠席したのはウガンダくらい。会計報告を見てもACCの分担金もほぼ各管区から納入されています。一時厳しい意見が伝えられたペルーとコロンビアの主教様も穏やかな紳士で、神戸教区の伊神司祭の思い出話をしておられました。聖公会誓約などなくても、家族としての聖公会は保たれると感じました。

○分かち合われた厳しい実情

ただし2週間近くの間に分かち合われた世界の実情は厳しいものでした。例えばファミリーネットワークの話の中心は出生届の問題でした。出生届がないと戸籍も住民登録もありません。保健や教育の機会を失うこともあります。近くに役所がない、書類をそろえるのに手数料を取られる、女兒の誕生を喜ばないなど、子供手当がもらえる日本では考えられないことです。戸籍がなければ人身売買に遭っても本人の証明がなく、保護から漏れてしまいます。戦乱で戸籍簿がなくなることもあります。教会の洗礼記録も後日戸籍を作る時に有力な証明力になるそうです。さらに戸籍がないと、その子供の戸籍が、また作れないという悪循環があります。女性の権利という問題も日本とは違う事情で考えなければなりません。パキスタンではキリスト者は少数派で種々の圧力の中で生活しています。そして14歳の少女が自分たちも教育を受けたいとの願いを主張して、タリバーンに銃撃されたことはニュースでも伝えられています。日本では子供を学校に行かせないと教育委員会から調査が来ます。文化が違うとはいえ、パキスタンの教会はこういう中で宣教に励んでいるのです。

○一緒に悩むべき多くの課題

環境ネットワークの分科会では原発の話が出るかと思ったら、水、食料、エネルギーの公平

(前頁より)

14日(金) 日本キリスト教連合会常任委員会〔ルーテル市ヶ谷センター〕

2013年

1月24日(木)～26日(土) 外キ協第27回全国協議会〔仙台〕

な分配や温暖化による海水位上昇に怯える島々からの訴えでした。日本だけではなく豊かな国々の代表は居心地の悪い場でした。水はともかく食糧を輸入し、大量の食べ残しを捨てているわたしたち。食糧を輸出しながら飢えている人々と向かい合っている教会を知らされたのです。原発が止まっても何とかなっているわたしたちの日本…。研究者は良く調べています。石油に換算してどの国が一人当たりどれだけのエネルギーを使用しているか、どれだけの食べ残しを出しているかを調べています。実は飢えている子供の数は世界では想像する以上に多いのです。

エネルギーの使用は温暖化につながります。日々自分たちの島が沈むのを恐れている教会があるのです。これも姉妹教会が直面している問題なのです。聖公会の絆、一致を言うなら一緒に悩むべき課題ではないでしょうか。

○姉妹教会の現実に関心を向けよう

日本聖公会の宣教協議会でも話題になりました。宣教の5指標に、第6指標として「平和を推し進め、暴力の停止と和解を追求する」を加える案は前回のACC-14でほぼ決まっていました。しかしこれは既に定められている5指標の中に含まれているとの考えから、第4指標を修正し「社会の不正な構造の変革に参与し、あらゆる暴力に立ち向かい平和と和解を追い求める」とされました。この平和と和解も日本で考えるのとは違う現実感があるのです。ナイジェリアでもパキスタンでも教会の礼拝中に襲撃を受け死傷者が出ています。教会の礼拝に出席するときには、無事に帰ってこれるだろうかと考えながら出席するのだそうです。約束の地とか聖地とか呼ばれるところでも子供たちが犠牲になっています。東日本大震災の被害には世界中の聖公会がお祈

りと援助で支えてくれました。わたしたちも姉妹教会の現実に心を向けたいものです。

○聖公会の一員である喜び

最終日に休憩時間を削ってもらって、東日本大震災被害のためのお祈りと支援へのお礼を申しました。日本は世界の環境に放射性物質をばら撒いてなんて批判は出ませんでした。地震の多い国で多くの原発を作ったという批判も出ませんでした。皆さん心からのお見舞いの言葉をくださいました。一言だけですがお礼とともに脱原発の総会決議にも触れました。多くのお国で同じ課題を抱えているようです。

一緒に歩こうプロジェクトのDVDを50枚持って行き、各管区で1枚と言って差し上げました。余った分は同じ地震国ニュージーランドにといい

ましたが、あっという間に全部なくなってしまいました。多くの人から握手を求められました。本当に聖公会家族の励ましに感謝しました。

ACC-15、とても短くはご報告できません。神学教育や結婚式文などについても語られましたし、エキュメニズムの話題もありました。多くの報告と話し合いは41の決議にまとめられ可決されました。私自身は聖公会の一員である喜びを改めて味わいました。最終日には12月末で退任されるカンタベリー大主教ローワン・ウィリアムズ師の誠実なお働きに感謝する決議をしました。一抹の寂しさを感じながらも、また新しい大主教様とともに聖公会の交わりが強められることを確信しています。

愛は隣人に害を加えることはない

管区事務所総主事 司祭 ヨハネ 相澤 牧人

教会で財布が盗まれる事件が起こった。犯人が捕まり、取り調べを受けた。刑事がいつ盗んだのかと聞くと、犯人は礼拝中だと言う。礼拝中といってもそれはいつのことなのかもっと詳しく、と重ねて問う。説教中です、と答える。刑事は不思議そうに、説教中ならたくさんの方がいたろう。皆一生懸命に聞いていたのではないのか。彼は答えた。はい、たくさんの方がいらっしゃいましたが、皆さんぐっすりとおやすみになっておられたので、つい…。

この頃じっくりと本を読むことが出来ない状態が続き、私でも学びの枯渇が気になっています。その解消のひとつとして、説教や講演をしっかりと聞き、学びとしていくということは私にとっての一つの救いかもしれません。そんなことを思っているときに、その学びを得ることが出来る説教や講演に出会いました。

イエス様を救い主として信じ、受け入れ、生きていこうとする私たちとは何者なのだろうか。つ

まりそれは、宗教とは何かということにつながるのだと思います。信じることは自由であるし、宗教が何かの制限を強要とするなら、それはいわゆる「カルト宗教」となってしまいます。では無制限かと言うと、そうではないでしょう。そこには根本的な原則はあると思うのです。その「宗教の原則とは何か」について、ある説教を聞く中で教えられました。

「私は『宗教の原則』というものを、聖書の中に見出すことが出来ると思います。それはパウロの言葉のロマ書13章10節であります。そこに『愛は隣人に悪を行いません』という言葉があります。以前の口語訳ですと、『愛は隣人に害を加えることはない』とあります。『愛は隣人に悪を行わない』、『愛は隣人に害を加えることはない』。明快な真理だと思います。」(広田勝一主教：聖公会関係学校教職員研修会での説教)

愛は隣人に害を加えることはない、というこの原則は、信仰の生活とは何かということを明確にしてくれていると思います。ロマ書のこの箇所後の言葉は「だから、愛は律法を全うするもので

す。」と続きます。神から与えられた律法は、それを生きる時、隣人に害を加えないのです。言い換えるなら、一人ひとりのいのちを大切にすることでしょう。それが律法を完成させるのです。

これに関連して、もう一つのことを教えられました。

「宗教は、人間のすべての問題を、短期のものも、長期のものも考慮に入れなければなりません。長期にわたることについて、すなわち、私たちは今どのような社会で生活したいと思っているかということについて、またその一方で、さらに子どもたちや孫たちのためにどのような社会を残して行ってあげたいのかということについて考えることを、これほど自らの本質として備えている機関は他にはあまりありません。」(ロバート・N・バー博士 ウィリアムズ主教記念基金講座での講演より)

宗教は、自らが持つ使命として、私たちが住むこの社会をどのようにしていくことなのかを問い続け、まさに“神の国の実現”へと歩み続ける

ことにあるのだと理解しました。イエス様が語る神の国は、いのちを大切に(隣人に害を加えない)状態のことです。教会は政治の問題、社会の問題を語る場所ではない、と言うような強い意見を聞きます。はたしてそうでしょうか。いのちの問題は深く政治にも関わり、社会問題にも関わる事柄です。東日本大震災から生じてきた様々な事柄は、そのことを教えてくれているのではないのでしょうか。

私たちは、本当に幸いなことに宗教者として生きています。キリスト者は日本では人口の0.8%です。しかし、その存在価値は大きいと思います。また、大きくしていかなければならないと思います。それは、キリスト者が、宗教の原則、宗教の本質を理解し、それを生きていくことによってなされていくことなのではないのでしょうか。信仰者が声を出すことの大切さを思いたいものです。教会がその原則によって発言する意味深さを意識したいものです。なぜなら、それは宣教の働きの一つなのであると思うからです。



□常議員会

第59(定期)総会後第3回11月20日(火)

<主な決議事項>

1. 第59(定期)総会期管区諸委員追加の件
・エキュメニズム委員(追加) 斎藤響子(東京)、浮田結子(大阪)
2. 2012年度管区一般会計収支予算(及び補正予算案)承認の件(責任役員会決議)
財政主事より、収支予算および補正予算案策定について説明を受けて承認。
収支予算の結果、法規第182条の規定に照らし、補正予算を組む必要なしと判断する。
3. 2013年度管区一般会計収支予算(及び補正予算案)承認の件(責任役員会決議)
財政主事より、収支予算および補正予算案策定について説明を受けて承認。
収支予算の結果、法規第182条の規定に照らし、補正予算を組む必要なしと判断する。
4. 2013年度管区事務所職員給与の件(責任

役員会決議事項)

総主事より、説明および提案を受けて承認。

5. 2013年度大斎克己献金国内伝道強化プロジェクト選定の件
以下の2件のプロジェクトに決定した。1件分1千万円は、2010年未使用分を充てることとする。
 - (1) 京都教区・ほっこり宣教プロジェクト
パイロットプラン 京都ぶどうの家(仮称)
 - (2) 可児ミッション(可児伝道所 中部教区)
土地・建物購入
6. 第59(定期)総会決議第8号(総会細則改正)に関する件
法文上不備はあるものの施行上では差し支えないことから、総会議事録(原本)のとおりに「法規」を印刷することとした。次回総会で整備したものを決議する。
7. 原発事故と放射能に関してのワーキング・グループ名称変更の件

当該ワーキング・グループからの要望を受けて、次のとおり名称を変更することとした。「原発問題特別プロジェクト」

8. 宣教協議会「提言」による放射能に関する取り組みの件

意見を交換。「原発問題特別プロジェクト」と「いっしょに歩こう!プロジェクト」の働きを結び付けていくことが肝要であるとの方向を得た。

9. 「いっしょに歩こう!プロジェクト」終了後に
関する件

意見を交換。11月27日に行われる運営委員会に意見を反映させることとする。

次回以降の常議員会

2013年1月29日(火)、4月9日(火)

□主事会議

第59(定期)総会期第3回 11月9日(金)

1. 横浜教区婦人会と協働して行っているフィリピン聖アンデレ神学校奨学生支援の今後に関して

- ・ 支援に期限を設けて、見直すことは必要なことである。そのために当初からの経緯を調べてみることにする。
- ・ 聖アンデレ神学校には、未だ結論は出していない旨伝えることにする。

2. “Tanzanear” 支援に関して

タンザニアの難聴の生徒・学生のための特別な教育を援助しているアイルランドの団体“Tanzanear”を2009年から4年間継続して支援しているが、2012年で終了する。継続するか否かについて検討。次のとおりとした。

- ・ 当初の予定どおり終了することとする。ただし、先方の様子を伺ってみて、改めて要請がある場合には、再度検討する。また、他の支援先について探っていくことにする。

3. 2013年度大斎克己献金国内伝道強化プロジェクト選定に関して

1) 下記2件の申請が出され、2013年度の応援先を決定した。

(1) 京都教区提出 「京都教区・ほっこり宣

教プロジェクト パイロットプラン：京都ぶどうの家(仮称)を主たる事業とする京都聖ヨハネ教会・新宣教プロジェクト」

(2) 中部教区提出 「可児ミッション(可児伝道所)」

2) 上記2件を主事会議として選定(内定)した。1件分1千万円は、2010年未執行用分を充てることとする。常議員会に提案する。

4. 2012年度管区一般会計収支予算及び補正予算案策定に関して

収支予算を検討。本年(2012年)は補正予算を組む必要なしと判断した。常議員会に議案として提出する。

5. 2013年度管区一般会計収支予算及び補正予算案策定に関して

収支予算を検討。次年(2013年)は補正予算を組む必要なしと判断した。常議員会に議案として提出する。

6. 宣教協議会の提言に関して

現時点で、主事会議としては特になしを確認。

7. 主事会議開催に関して

財政状況を考慮に入れて、今総会期の主事会議開催を2ヶ月に1回とすることとした。

次回以降の会議

2013年1月18日(金)、3月19日(火)

□各教区

京都

- ・ 聖職接手式 2012年12月8日(土)10時半 京都教区主教座聖堂(聖アグネス教会) 司祭接手: 志願者 執事 マタイ出口 創

📖 出版物案内

- ・ 『2013年度 教会暦・日課表』
2012年10月15日付発行 価280円(税込)
(残部僅少)
- ・ 『日本聖公会要覧2011年-2012年』
2012年11月1日付発行 価1000円(税込)
ご注文は教会単位で。同封の申込ハガキをご利用ください。

《人 事》

東京

司祭 ウイリアム・ローレンス・ブルソン

2012年11月1日付 聖オルバン教会牧師任命

<信徒奉事者認可>

2012年10月15日付

(聖救主教会)

石郷岡和彦 (任期:2013年3月31日まで)

京都

<信徒奉事者認可>

2012年11月1日付

(富山聖マリア教会)

ピリポ廣瀬康夫 (任期1年)

神戸

ミカエル杉野達也

2012年10月15日付 日本聖公会聖職候補生に認可する。

沖縄

ヨシユア上原成和

2012年10月12日付 日本聖公会聖職候補生に認可する。

各教区の広報担当責任者
連絡会を開催

—教区を照らす灯・文書伝道の基点—

さる11月8日(木)、日本聖公会11教区の教区報編集責任者が管区事務所会議室に集まり、編集の苦心点・特色づけ・今後の課題について懇談し、情報を交換し合った。教区報編集者の集いは2011年に予定されていたが、東日本大震災のために開催が延期されて、このたび実現したもの。編集長が出席できない教区は代理の方に出席していただいた。教区報の編集者がこうして一堂に会したのは初めての試みである。

当日の出席者は丹政清氏(北海道教区)、涌井康福司祭(東北教区)、大橋邦一司祭(北関東教区)、渡辺康弘氏(東京教区)、吉田仁志聖職候補生(横浜教区)、後藤香織司祭(中部教区)、鈴木恵一執事(京都教区)、田宮紘執事(大阪教区)、小南晃司祭(神戸教区)、山本安美氏(九州教区)、並里厚氏(沖縄教区)。管区から相澤牧人司祭(管区事務所総主事)、鈴木一(管区事務所広報主事)。

開会祈祷の後、相澤総主事から、各教区・教

会・管区で発行配布される各種の印刷物の中でまんべんなく全信徒の家庭に入っていくものは教区報であり、教区報の担う役割りが大きいことを管区サイドから常に実感していること、また2012年日本聖公会宣教協議会の内容が全ての教区報で詳報されたことへの謝意が述べられ、それを受けて各教区報の編集の苦心・編集の重点・作成部数・制作費用(単価)・編集体制の現状・これからの課題について分かち合うひと時を持った。

編集体制については大部分の教区が委員会を設置して編集実務に当たっている。編集委員会は各教区とも聖職・信徒数人~8人で構成。東京教区は週刊なので11人体制。九州教区は聖職とその教員が毎年持回り制で編集を担当して誌面に特色を出すようにしているとのことである。

編集面での苦心・特色付け・課題に関して一、
・教区が広範囲にわたるので各教会の活動情報を欠かさずに掲載する。(北海道教区、東北教区)

・教区への情報が偏らないように特に新潟・長野には「特派員」を置いている。(中部教区)

・保育園・幼稚園だよりを毎号掲載。(沖縄教区)

・教区間の協働記事を掲載。(京都教区、大阪教区)

・クリスマス号、イースター号はカラー印刷にして、教会印を押して配布している。(神戸教区)

・クリスマス、イースターの号はカラー印刷で発行している。(九州教区)

・週刊の教区ニュースとは別に季刊「コミュニオン」誌では特集企画を内容としている。(東京教区)

・教区HPと教区報との関連付けと使い分けを考えていきたい。(横浜教区)

・編集会議は企画と記事の構成を中心に行ない、原稿のやりとりと校閲・諸連絡はPC通信等で処理し、レイアウト等は印刷所にまかせて、教区報発行事務の効率化をはかっている。(北関東教区)

などなど、多くの事が語られ質疑応答が弾んだ。「常置委員会報告」の掲載のしかたは各編集

者の頭を悩ますものの一つで、記事の扱い方をめぐって話し合いが弾んだ。「会議報告の掲載は止めた(但し教区事務所便りで報告する)」「記録として載せる」「選択して載せる」「書記局経由のもの載せる」「常置委員長報告として載せる」。要は、読者(信徒)に読んでもらえるような原稿内容にしなければ意味がないということであろう。

最後に、2012年日本聖公会宣教協議会でまとめられた「日本聖公会〈宣教・牧会の十年〉提言」、また正義と平和各プロジェクトの主張を教区報の編集でどのように受け止めて行くか、について意見を出し合った。「管区事務所だより」への要望もお伺いして、同業?の誼を深め、たいへんに成果ある集まりであった。2~3年後の再会を約して夕刻に解散した。(広報主事・鈴木一)

東日本大震災支援

「いっしょに歩こう!プロジェクト」 仙台オフィスから ⑭

— 福島に来て、今、感じること —

主教 谷 昌二

私は、この7月から福島聖ステパノ教会の牧師館に住まわせていただいて、ホントにちょっとしたお手伝いをさせていただいています。月の4分の3は福島で、残りは奈良に帰っての生活です。

つい最近のこと、奈良県全体のキリスト教会主催の、「賛美と礼拝の集い」がありました。カトリック、プロテスタントが協力しての4年に一度の大きな催しでした。合同合唱団・ソロ二人でのメサイアの抜粋演奏、メッセージ、そして、子供たちによるゴスペルの合唱やダンスがあって楽しいものでした。が、このプログラムの中で、一言も、東日本大震災のこと、又、今放射能で苦しむ福島のことに触れられなかったことに驚かされました。きっと、各教団では担当者の方々が支援活動をされているのでしょう。しかし、この大事なイベントでの全くの沈黙は、大きなショッ

クでした。が、逆に、この現実をしっかりと見つめないといけないことを教えられたのです。

私は、14年間、沖縄で奉仕をさせていただきましたが、これは沖縄問題に関する本土の人々の感覚と同じものがあることも、改めて認識されたのです。沖縄の問題も、東北・特に福島・放射能の問題も、多くの人々にとって、どこか他人事でしかなく、自分の問題となっていないことに危機感を感じます。あれほど危険なものだと言われ、各自治体が全く受け入れを拒否しているオスプレイが、こうも易々と普天間基地に配備されてしまう現実、日本はいまだに世界の覇権者アメリカの植民地に過ぎないということではないでしょうか。今、放射能汚染のために、家を奪われ、土地を奪われ、仕事を奪われ、家族ばらばらになって苦しむ多くの人々がいるこの現実をしっかりと見つめ、これから力を合わせて、いかに克復し、どこかに風穴を開けて、新しい未来を、どう切り開いていくのか。これは、単に、福島だけの問題ではなく、我が国全体の、いや、世界全体の、そして、人類全体の最も大きな課題ではないのか。今、ひしひしと感じるのです。

ご家族が福島原発から15キロ地域で被災された方の、こんな言葉に出会いました。「私たち

は地震や津波による死者が1万人、2万人とその数が大きくなる度に、数に対して、あるいは死に対して心がどこかで麻痺してしまったかもしれません。死はあくまで一人一人の死であり、一人一人の遺族の悲痛であるはずです。同じように、土地があるのに土地を捨て、家があるのに家を捨て、仕事も捨てなければならなかった避難民も、5万人、10万人という数で私たちの心が麻痺してはけないと思うのです。一人一人の幸せや希望や、家族の歴史が絶たれたのです。」私たち自分自身が、そして、自分の家族が、このような現実に出会った時、一体どのような思いになるのか。これを先ず、自分の問題としてしっかりと受け止めることが何よりも必要なことだと思います。それができて、次のステップが見えてくるのです。

今、福島の実現は、とっても重いものです。人類の科学技術の最先端で作り出されたものが、

人類に向き直って圧倒的な破壊力を発揮して、私たちは、なすすべもなく打ちひしがれているのが現実ではないでしょうか。次々と放射能の除染や新しいコミュニティ造りの方針が打ち出されていますが、未だにその場しのぎの未熟な対応でしかなく、決して根本的な解決は見えていません。

しかし、現実はこうであっても、私は、信仰の希望をもって歩んで行きたいと祈り、願っています。必ず、道は示される、道は開かれる。自然や人類の技術は、必ず崩壊の道をたどりますが、私たちには、信仰を通してそれを超えた方の力、復活の力、イエス・キリストを通しての神の新しい創造の力が与えられているのです。この信仰の力と恵みの中でこそ、この危機の現実を、逃げないで、正直に、ありのままを見つめることができるのではないのでしょうか。共に、祈り、歩んで行きたいと願います。

◀ 次期・第105代カンタベリー大主教の任命

2012年11月9日(現地時間) ACOの発表によると、現カンタベリー大主教、ローワン・ウィリアムズ師の退任予定に対応して、ダラム教区主教ジャスティン・ウェルビー師(56歳)が次期105代カンタベリー大主教に任命された。師はケンブリッジのトリニティカレッジで教育を受け、11年間石油業界で活躍された後召命を受けて、ダラムのクランマーホールと聖ヨハネ大学で神学教育を受け、1992年に聖職に接手された。1992年から1995年までコベントリー教区、1995年から2002年までコベントリー教区のサウスハム及びアフトンで牧師を歴任。2002年から2007年まではコベントリー大聖堂の定住参事となり、2007年から2011年までリバプール大聖堂の主任司祭、2011年11月にダラム教区の教区主教に就任された。この間教区や英国聖公会の各種委員会の要職も歴任された。家族は妻キャロラインさんと5人の子どもに恵まれている。



世界への窓

参考までにカンタベリー大主教の任命のプロセスを、公表されている資料に基づき解説してみる。Crown Nomination Commission (CNC) は聖職(主教と司祭)及び信徒16名で構成され、現カンタベリー大主教が2012年末に退任する事を発表された後、2012年5月中旬にそのメンバー構成が発表された。次期カンタベリー大主教候補2名を首相に推薦することがCNCの使命である。数回の会議を経て推薦者を提案し、最終的に女王によりジャスティン・ウェルビー師の任命となった。

但しCNCの会議での協議の内容、開催場所や時期に関しては全く公表されない。(参考資料) ACNS : 2011年11月9日 Announcement of the 105th ABC The ABC's Web site: 2012年11月9日 Biography of Justin Welby The Telegraph: 2012年11月7日 Justin Welby to be new ABC

(記・渉外主事 八幡眞也)